

# 高 血 壓 ノ 統 計

金澤醫科大學谷野内科教室(谷野教授指導)

富 塚 作 司

*Tomitsuha Sakuji*

白 藤 憲 三

*Shirafuji Kenzo*

(昭和13年11月30日受附)

## 内 容 抄 録

余等ハ最近5ケ年間ニ於ケル腎性高血圧217例、血管性高血圧462例ノ統計的觀察ヲ行ヘルニ、ソノ頻度ハ男子6%、女子ハ3.1%、男女平均4.8%ニシテ、ソノ中血管性高血圧3.28%、腎性高血圧ハ1.54%ヲ占メ、ソノ比ハ約2:1ニシテ血管性高血圧ハ男子ニ多ク、腎性高血圧ハ男女ノ間ニ著シキ差ヲ認メズ。高血圧ハ40年代ヨリ急激ニ増加スルモ血管性ノ場合ハソノ増加急激ニシテ、腎性ノ場合ハ著シク緩漫ナリ。若年者ニ於テハ腎性高血圧ノ方多シ。女子ニ於ケル血管性高血圧

ハ40年代ニ於テ特ニ多發スル傾向ヲ認メ、腎性高血圧ハ男子ニ比シ若年者ニ於テ明ラカニ多シ。コレ等ハ夫々月經閉止、妊娠及ビ分娩ニ關係アルモノト考ヘラル。糖尿病患者ニシテ血管性高血圧ヲ示スモノ並ビニ血管性高血圧ニシテ糖尿或ハ微毒ヲ有スル率ハ對照ニ比シ著明ニ高シ。血管性高血圧患者ハ逐年増加スル傾向ヲ示スモ、ソノ血壓度及ビ若年高血圧患者ノ増加ハ認メ得ザリキ。

## 目 次

第1章 緒 言

第2章 觀察材料

第3章 一般の頻度

第4章 高血圧ト性及ビ年齢トノ關係

1. 高血圧ト性トノ關係

2. 高血圧ト年齢トノ關係

3. 高血圧ト性別年齢別觀察

第5章 血管性高血圧ト他疾患トノ關係

1. 糖 尿 病

2. 高血圧ト微毒

第6章 遺傳、年度別頻度、主訴浮腫ニツイテ

第7章 總括及ビ結論

文 獻

## 第1章 緒 言

近年血圧ノ研究盛ナルニツレ多數諸家ニヨリテソノ統計的研究モ多ク報告サル、ニ至レリ。歐洲ニ於テハ E. Kylin, Volhard, Wichm-

ann u. Paal 氏等多數諸家ニヨリテ報告サレ又我が國ニ於テハ佐々、林、志田、川島、中津川、伊藤及ビ服部等諸氏ノ報告アリ。

余等ハ最近5ケ年間ニ谷野内科ニ於テ診療ヲウケ高血圧ヲ認メラレタル679例ニツキノ統計的觀察ヲナセリ。

高血圧ノ統計的觀察ニ於テ最モ困難ナルハ其ノ限界値ノ決定ニシテ前記諸家ノ中ニハ血壓度140耗水銀柱又ハ150耗，160耗以上ヲ以ツテ高血圧ト定メ，ソノ標準血壓ハ各報告者ニヨリテ一定セズ。由來血壓ハ年齢ノ増加ト共ニ漸次上昇スルコトハ先進諸家ノ統計ニヨリテ明ナリ。從ツテ各10年代ニ於ケル健康者平均血壓モ漸次上昇ス。コレハ石川氏，平川，倉矢兩氏（若年者高血圧），日小田，廣田，種林，柴山氏（中年者及ビ老年者血圧），石岡氏等ノ統計的報告ニヨルモ明カナリ。コレラ諸氏ノ報告ニヨリ若年者及ビ中年者ノ標準血壓ニ關スルアル程度ノ概念ヲ得ルモ老年者血圧測定ノ材料中ニハ腎臟疾患又ハ動脈硬化症等ヲ有スルモノモ存スルヲ以ツテ極メテ正確ナリトハ言ヒ難キ如シ。コレニ

加フルニ石岡氏ニヨレバ各個人ノ血壓ハソレニ相當スル10年代平均血壓ノ上下ニ於テ相當廣範圍ニ分布セルモノニシテ，從ツテ平均血壓トノ單ナル比較ヲ以ツテ直チニ高血圧ノ有無ヲ判定スルハ適切ナラズ。理論的ニハソノ分布曲線ヨリ男女別ニ平均値ト標準偏差トヲ算出シ，コレヲ以ツテ判定ノ規準トナスベキモノナレドモ，吾々ハ便宜上安靜時血圧150耗以上ヲ以ツテ高血圧ト定メタリ。蓋シ石岡氏ニヨレバ59歳迄ニ於テハ男女共ニ血圧150耗ヲ超ユルモノ極メテ少數ナルガ故ナリ。コノ規準ハ若年者ニハ稍寬ニシテ，老年者ニハ稍嚴ニ過グル嫌アルモ大體ニ於テ妥當ナリト信ズ。

次ニ余等ハ本統計ニ於テハ高血圧ヲ血管性高血圧（本態的高血圧）及ビ腎性高血圧（慢性腎臟炎，原發性萎縮腎，萎縮腎，續發性萎縮腎等）ノ2群トナシ兩者ヲ比較對照セリ。

## 第2章 觀 察 材 料

觀察材料ハ昭和7年ヨリ昭和11年末ニ至ル最近5ケ年間ニ谷野内科ニ於テ診療セラレタルモノニシテ男子

491例，女子188例，合計679例ナリ。

## 第3章 一 般 的 頻 度

最近5ケ年間谷野内科ニ於テ診療セル一般患者總數ハ14070名，（男8084，女5986），コノ中高血圧ヲ示スモノハ679例（男子491例，女子188例）ニシテ，高血圧ハ一般患者總數ノ4.8%ニ相當シ，男子ハ男子總患者ノ6.0%，女子ハ女子總患者ノ3.1%ニ相當ス。佐々（廉平）氏ノ血圧ニ關スル統計ニ於テハ血圧160耗以上ヲ示セルモノ23.4%，橋本，赤塚兩氏ノ報告ニテハ10.8%，川島氏ハ150耗以上ノモノ總患者數ノ5.2%ニ當ルト報告セリ。余等ノ場合ハ大體川島氏ノ報告ト近似セルモ佐々氏，橋本，赤塚兩氏ノ報告ニ比シ遙ニ低シ。佐々氏ノ場合ニ於テハ氏自身述べ居ル如ク「特種ノ專門ヲ標榜スル關係上高血圧ノ集ル」故ト考ヘラル。

次ニ病症別ニ頻度ヲ細別スルトキハ第1表ノ如シ。即チ第1表ニヨレバ血管性高血圧ハ受診

第1表 高血圧患者實數

		性 別		
		♂	♀	計
血管性高血圧		355	107	462
腎性高血圧	慢性腎臟炎	92	63	155
	原發性萎縮腎	17	4	21
	萎縮腎	16	9	25
	續發性萎縮腎	4	0	4
	ソノ他ノ腎疾患	7	5	12
小 計		136	81	217
總 計		491	188	679

患者ノ3.2%, 462例, 腎性高血圧ハ15.4%, 217例ニシテ前者ハ後者ノ約2倍ノ頻度ヲ示ス。歐米學者ノ統計ニテハ一般ニ非腎性高血圧ノ頻度大ナリト云フ。佐々氏ニヨレバ殆ソド兩者ノ頻度同數ナリトイフ。カ、ル頻度ノ相異ハ兩症區分ノ標準ノ異ナルタメナラント佐々氏ハ述ベタリ。余等ノ統計ニ於テハ血管性高血圧ノ方ガ遙

ニ多シ。而シテ腎性高血圧ノ中ニテ原發性萎縮腎及ビ單ニ萎縮腎トシテ原發性ナリヤ續發性ナリヤ不明ノモノ46例ヲ血管性高血圧ニ編入スルトキハ血管性高血圧ハ508例トナリ腎性高血圧ハ171例トナリ, ソノ出現度ハ前者ハ後者ノ約3倍トナル。各種腎疾患ノ頻度ハ大體第1表ノ如ク慢性腎臟炎最モ多シ。

#### 第4章 高血圧ト性及ビ年齢トノ關係

##### 1) 高血圧ト性トノ關係

高血圧ト性トノ關係ニツキテハ諸家ノ統計ニヨリテ可ナリノ差異ヲ認メラル。今諸家ノ成績ヲ見ルニ Volhard u. Fahr 氏ニヨレバ男194例(59.3%)ニ對シ, 女子ハ119例(40.7%), E. Wichmann u. Paal 氏ハ男子239例ニ對シテ女子ハ261例ニシテ, 女子ニ多シト述ブ。我が國ニ於テハ林氏ハ男子113例ニ對シ女子53例ニシテ男子ハ女子ノ2倍以上ヲ占メ佐々氏ハ女子對男子ノ比ハ1:2.2, 志田氏ニテハ1:1.4ナリ。川島氏ハ一般高血圧症ニテハ1:2ニシテ本態の高血圧症ニテハ55例中男子36例, 女子19例ヲ報ズ。最近平本, 内田, 牛塚氏等ハ本態の高血圧113例中男子71例, 女子42例ヲ見タリトイフ。即チ男子ニ多シトナス人多ク殊ニ血管性ノモノニ於テ然リトス。

余等ノ成績ニ於テモ血管性高血圧462例中男子ハ355例, 女子107例ニシテ男子ニ多シ。但シソノ比ハ3.3:1ニシテ前記諸氏ノ統計ニ比シ可ナリニ高シ。斯クノ如ク諸家ノ統計ニヨリ性別頻度ニ差異大ナルハ本症ノ原因ノ關係ニ於テ差異アルタメカ, 又ハ地方ニヨル醫學智識普及ノ程度及ビ女子ハ男子ニ比シテ醫師ニ受診スルコトヲ躊躇スル傾向アルタメト考ヘラル。腎性高血圧ニテハ男子136例, 女子81例ニシテ男子ハ女子ノ1.6倍ナリ。即チ腎性高血圧ニ於テハ血管性高血圧ニ比シ女子ノ頻度比較の大ナリ。

然シ乍ラ以上ノ比較ハ患者ノ實數ニ就イテノ比較ニシテ更ニコレヲ一般患者ノ男女夫々ノ總數ニ對スル高血圧者男女夫々ノ百分率ヲ以ツテ

比較スルトキハ血管性高血圧ニテハ男子ハ4.4%, 女子ハ1.8%, 即チ男子ハ女子ノ2.5倍トナリ, 腎性高血圧ニテハ男子1.6%, 女子1.3%ニシテ男子ハ女子ノ1.2倍トナル。即チ血管性高血圧ハ男子ニ多發スルニ反シテ腎性高血圧ニテハ男子, 女子ノ頻度ニ著明ノ差異ヲ認メズ。

##### 2) 高血圧ト年齢トノ關係

高血圧ト年齢トノ間ニ密接ナル關係ノ存スルコトハ既ニ諸家ノ統計ニヨリテ周知ノ事實ナリ。余等ハ初診當時ノ年齢ニヨリ各10年代別ニ分ケテ考察セリ。

高血圧者ノ頻度ガ年齢ノ増加ト共ニ増加スルコトハ先進諸家何レノ統計ニ於テモ明カナル如ク, 余等ノ統計ニテモ患者實數ニ於テハ同様ニシテ40年代(41歳ヨリ50歳マデ, 以下コレニ準ズ。)ヨリ60年代ニアルモノ, ツノ大部ヲ占メ, 殊ニ50年代ノモノハ全體ノ3.5%ヲ占ム。

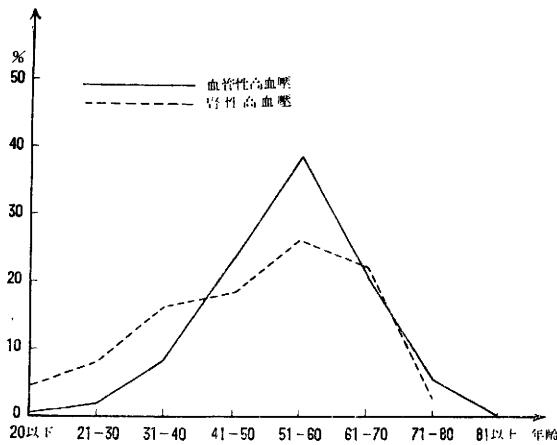
次ニコノ年齢別分布ヲ血管性高血圧及ビ腎性高血圧ニ就イテ見ルニ血管性高血圧ハ比較の若年者ニ少ク40年代ニ於テ急激ニ増加シ50年代ヲ最高トシテ漸次低下ス。即チ40年代107例, 50年代180例, 60年代97例ニシテ50年代ノモノハ實ニ38.9%ヲ占ム。コレハ川島氏ノ29%ヨリ勝ルモ中津川氏等ノ40.7%, 佐々氏ノ38%ト殆ソド同様ノ數値ヲ示ス。コレニ反シ腎性高血圧ニテハ血管性高血圧ニ比シ若年者ニアリテモ比較的多數ノ患者ヲ認メ, 且ツ年代ヲ加フルニ從ツテ増加スル割合モ, 血管性高血圧ノ如ク急激ナラズ, 20年代ヨリ漸次増加シ, 血管性ト同様ニ50年代ニ於テ最多トハナルモノノ%ハ26.2%ニ

シテ遙カニ血管性ヨリ低シ(第2表, 第4, 5表ノ1, 第1圖参照).

第2表 年齢別實數

年 齡	20 以下	21   30	31   40	41   50	51   60	61   70	71   80	81 以上	計
血管性高血圧	2	9	40	107	180	97	26	1	462
腎性高血圧	10	18	36	43	57	47	6	0	217
合 計	12	27	76	150	237	144	32	1	679
百分率(%)	0.1	4.0	11.2	22.0	35.0	21.6	4.7		

第1圖 高血圧患者ノ年齢別分布圖  
(第4, 5表ノ1)



以上年齢トノ關係ハ受診高血圧患者ノ實數ノミヲ基礎トセルモノニシテ一般患者ノ比較的多數ニ診察サル、年代ニアリテハ高血圧ヲ示ス者モ亦他ノ年代ノ者ヨリ多ク存スルハ當然ノ結果ナリ。殊ニ60年代以後ノ受診患者總數ハ少數ナリシヲ以ツテ此ノ數字ノミヲ以ツテハ正確ナル判定ヲナシ得ズ(第3表)。依ツテ余等ハ眞ニ高血圧ノ發生ト年齢トノ關係ヲ見ントシテ一般患者ヲ各10年代別ニ區分シ、ソノ各10年代一般患者總人員ニ對スル高血圧者ノ%ヲ求メ、ソレニヨリテ高血圧者ノ頻度ヲ觀察セリ。即チ第4表, 5表ノ2及ビ第2圖ニ示ス如クニ血管性、腎性共ニソノ出現頻度ハ年齢ト共ニ増加セリ。而シテ血管性高血圧ニ於テハ各10年代毎ノ増加ハ急激ニシテ8乃至11.4%ニ達スル事アルモ腎

性高血圧ニ於テハ3.9%ヲ超エズ、前者ニ比シ甚ダ緩慢ナリ。又各10年代毎ノ増加ヲ點檢スルニ血管性高血圧ニテハ20歳以下ト20年代トノ差ハ0.3%ニシテ極メテ僅少ナルモ30年代ニ入ルヤ+1.3%トナリ既ニ多少ノ増加傾向アリ。40年代+4.6%, 50年代8.0%ニシテ顯著ナル上昇ヲ來タシ此ノ間ニ於テ多數ノ高血圧ヲ發生スルコトヲ示セリ。

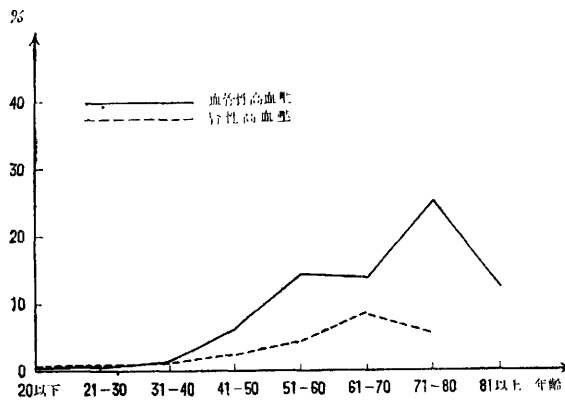
腎性高血圧ニ於テハ若年者ノ頻度血管性高血圧ヨリ高く此處ニ於テモ亦20歳以下ト20年代トノ間ニハ差ヲ認メズ。30年代ニ入り稍(0.9%)増加シ以後+1.2%, +2.0%, +3.0%ト各10年代毎ニ増加ノ傾向ヲ加フルコトハ血管性高血圧ト同様ナルモ、増加度ハ極メテ緩徐ナリ。

70年代以上ノ症例ハ充分多數ナラザリシヲ以

第3表 年齢別男女別實數

疾患	年齢	年齢								計
		20以下	21-30	31-40	41-50	51-60	61-70	71-80	81以上	
血管性高血壓	♂	2	9	30	79	143	73	18	1	355
	♀	0	0	10	28	37	24	8	0	107
慢性腎臓炎	♂	5	7	15	22	25	14	4	0	92
	♀	5	9	20	15	10	3	1	0	63
原發性萎縮腎	♂				2	5	10			17
	♀				0	1	3			4
萎縮腎	♂				0	5	10	1		16
	♀				1	5	3	0		9
續發性萎縮腎	♂					2	2			4
	♀					0	0			0
ソノ他ノ腎疾患 (腎盂炎, 腎結石)	♂		1	1	1	2	2			7
	♀		1	0	2	2	0			5
小計	♂	5	8	16	25	39	38	5	0	136
	♀	5	10	20	18	18	9	1	0	81
合計	♂	7	17	46	104	182	111	23	1	491
	♀	5	10	30	46	55	33	9	0	188
五年間受診患者總數	♂	1462	2779	1502	1083	787	392	73	6	8084
	♀	1252	2233	1166	657	482	164	30	2	5986
	計	2716	5012	2668	1740	1269	556	103	8	14070

第2圖 各年代別一般患者ニ對スル高血壓患者ノ出現頻度  
(第4, 5表ノ2)



ツテ正確ヲ期シ難キモ斯カル高齡ニ於テハ血管性、腎性何レモ高血壓ノ頻度減少ニ傾クガ如シ。コレハ治癒ニ基クニ非ズシテ斯カル患者ノ

多數ハ高齡ニ達シ得ザルニ依ルモノナル可シ。20年代マデノ若年者ニ於テハ血管性高血壓ニ比シ腎性高血壓ノ方多ク、30年代ニテハ略同頻度

ニシテ以後ハ血管性高血圧ノ方多シ(第2表,

第4, 第5表).

第4表ノ1 血管性高血圧ノ年齢別分布 (百分率)

性 年齢	♂	♀	♂+♀
20以下	0.6	0	0.4
21-30	2.5	0	2.0
31-40	8.5	9.3	8.7
41-50	22.3	26.2	23.2
51-60	40.3	34.6	38.9
61-70	20.5	22.4	21.0
71-80	5.1	7.5	5.6
81以上	0.2	0	0.2

第4表ノ2 各年齢別ノ一般患者ニ對スル血管性高血圧ノ年齢別頻度 (百分率)

性 年齢	♂	♀	♂+♀
20以下	0.1	0	0.07
21-30	0.3	0	0.2
31-40	1.9	0.8	1.5
41-50	7.2	4.2	6.1
51-60	18.1	7.8	14.1
61-70	18.6	14.6	13.8
71-80	24.6	26.6	25.2
81以上	16.6	0	12.5

第5表ノ1 腎性高血圧ノ年齢別分布 (百分率)

性 年齢	♂	♀	♂+♀
20以下	3.7	6.2	4.6
21-30	5.9	12.3	8.2
31-40	11.8	24.7	16.5
41-50	18.4	22.2	19.8
51-60	28.7	22.2	26.2
61-70	27.8	11.1	22.1
71-80	3.7	1.2	2.7
81以上	0	0	0

第5表ノ2 各年齢別一般患者數ニ對スル腎性高血圧ノ年齢別頻度 (百分率)

性 年齢	♂	♀	♂+♀
20以下	0.3	0.4	0.4
21-30	0.3	0.4	0.4
31-40	1.1	1.7	1.3
41-50	2.3	2.7	2.5
51-60	4.9	3.7	4.5
61-70	9.6	5.5	8.4
71-80	6.8	3.3	5.8
81以上	0	0	0
合計	1.6	1.3	1.54

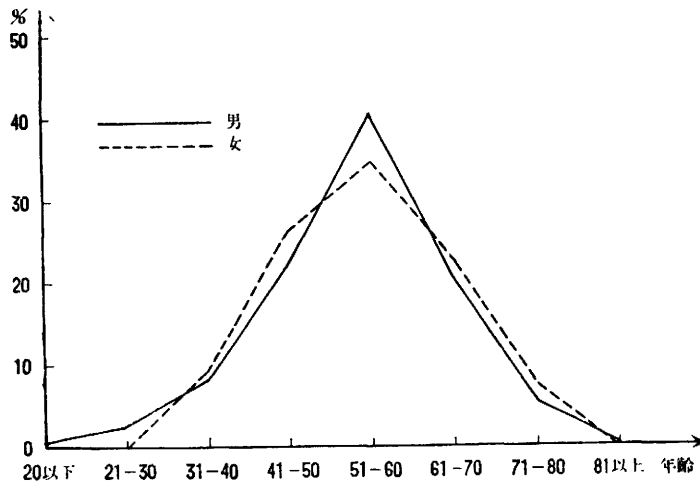
3) 高血圧ノ性別, 年齢別觀察

血管性高血圧患者ノ實數ニ就イテハ第3表ニ示セルガ如ク若年患者ハ男子ノミニ見ラレタリ. 30年代以後ニ於テモ男子ニ多キコト前述ノ如クナレ共, 男女患者數ノ比ヲ求ムル時ハ30年代男對女3:1, 40年代2.8:1, 50年代3.8:1, 60年代3.2:1トナル. 然ルニ觀察セル血管性高血圧患者數ハ男3.3, 女1ノ割合トナルガ故ニ女性患者ハ40年代ニ於テ比較的多ク, 男性患者ハ50年代ニ比較的多キヲ知ル可シ. 次ニ第4表ノ1ノ如ク觀察セル血管性高血圧患者ニ就キ男女各別ニ各10年代別ニ分ケ, 之ヲ夫々全數ニ對スル%ヲ求ムルニ男女共ニ40年代, 50年代ノ者

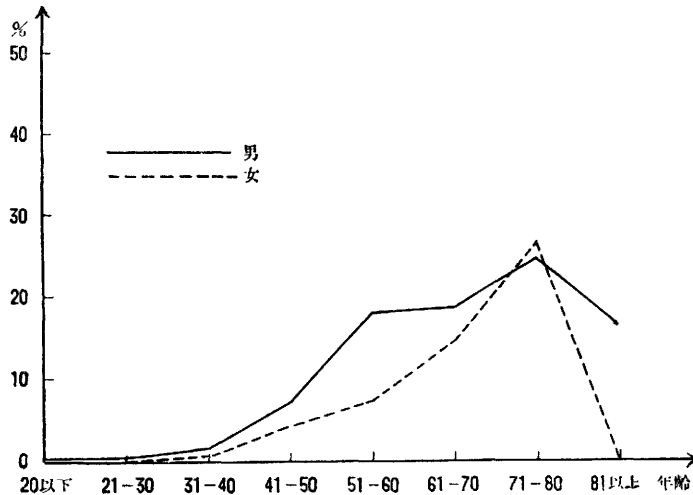
最モ多キヲ占ムルモ40年代ニ於テハ女子ハ26.2%, 男子ハ22.3%, 50年代ニ於テハ女子34.6%, 男子40.3%ヲ示セリ. 即チ女子ハ40年代ノモノ比較的多ク, 男子ハ50年代ノモノ比較的多キヲ見ルベシ(第3圖參照).

更ニ又一般患者總數ニ對スル血管性高血圧患者ノ頻度ヲ男女別, 年代別ニ算出シ(第4表ノ2, 第4圖)タルニ各年代共男子ニ多キモ, 男子30年代1.9%, 40年代7.2%, 50年代18.1%, 女子ハ夫々0.8%, 4.2%, 7.8%ニシテ男女ノ比ハ夫々2.4:1, 1.7:1, 2.3:1トナレリ. 而シテ男子血管性高血圧患者ノ男子一般患者ニ對スル%ハ女子ノ夫ノ2.5倍トナルガ故ニ, コレニヨ

第 3 圖 男女血管性高血患者ノ年齢別分布  
(第 4 表ノ 1)



第 4 圖 男女血管性高血患者ノ一般患者ニ對スル頻度  
(第 4 表ノ 2)



ルモ女子ニ於ケル40年代ノ患者比較的多キ事ヲ知ル可シ。又同表ニ就テ30年代ヨリ50年代マデ各年代毎ノ増加ヲ檢スルニ男子ニテハ30年代ヨリ50年代へ、40年代ヨリ50年代ヘト年代ノ進ムニツレテ夫々+5.3%、+10.9%ヲ増加シ、女子ニテハ+3.4%、+3.6%ヲ増加セリ。即チ男子ニテハ40年代、50年代ト進ムニ從ツテ増加ハ益々急峻トナル反シ、女子ニ於テハ略直線的

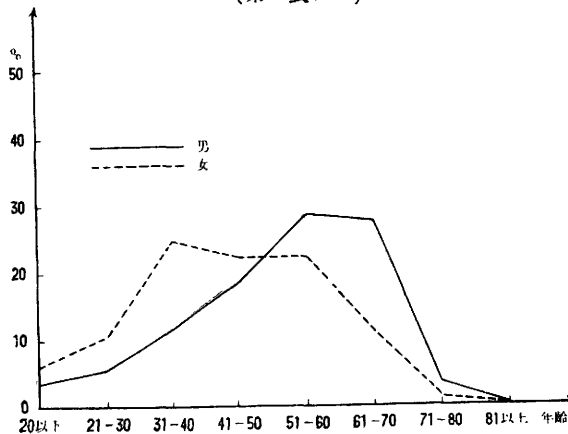
ニ増加ス。以上ノ諸觀點ヨリ明ナル如ク男子ニ於テハ40年代ヨリ明ニ増加シ始メ、50年代ニテハ特ニ顯著トナル。女子ニテハ40年代ニ於テ特ニ多發スル傾向アリ。コレ先進諸家ノ唱ヘタル如ク女子ノ血壓充進ガ月經閉止ト何ラカノ關係アルコトヲ示スモノナラン。

次ニ第 3 表ニ就テ腎性高血壓ヲ見ルニ30年以後ト以前ニ於テハ却ツテ女子ニ多く、40年代以

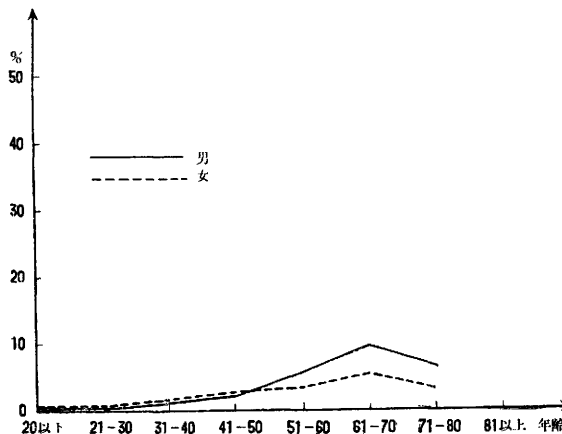
後60年代迄ハ男子ハ女子ノ夫々1.4, 2.2, 4.2倍トナレリ。而シテ腎性高血圧患者數ノ比ハ男1.6, 女1ナルヲ以ツテ上記ノ數字ヨリ女性患者ハ30年代以前ニ比較的多ク, 男性患者ハ50年代以後ニ比較的多キヲ知ル可シ。此ノ關係ハ又第5表1(血管性高血圧第4表ノ1ニ相當スル

表)及ビ第5圖ニ於テモ明カニ示サレ女子ニ於テハ30年代24.7%ヲ最高トシ, 20年代ニ於テモ相當高キ%ヲ示スモ, 男子ニ於テハ50年代ヲ最高トシ, 20年代ニテハ著シク低シ。第5表ノ2(血管性高血圧第4表ノ2ニ相當スル表)ニ於テモ同様ノ關係ヲ窺フコトヲ得ルモノニシテ, 一

第5圖 男女腎性高血患者ノ年齢別分布  
(第5表ノ1)



第6圖 男女腎性高血患者ノ一般患者ニ對スル頻度  
(第5表ノ2)



般患者ニ對スル頻度ハ40年代迄却ツテ女子ニ大ニシテ, 50年代ニ至リ始メテ男子ハ女子ノ1.3倍トナリ多ク, 年代ニ關係ナキ頻度ハ男1.6, 女1ナルハ既ニ述ベタルガ如シ(第6圖参照)。即チ女子ニ於テハ男子ニ比シ, 30年代以前ニ於

テ既ニ多數ノ腎性高血圧症ヲ發スルモノナル事ハ疑ナキガ如シ。斯クノ如ク男子ヨリ早期ニ腎性高血圧症ヲ發生スルハ妊娠及ビ分娩ニヨル腎炎ノ發生乃至増悪ガ壯年期ニ多キニ起因スルモノナル可シ。余等ノ統計ニテハ女子81例中妊娠



及ビ分娩ニ關係アルモノ13例(20年代4名, 30年代8名, 40年代1名)ニシテコレヲ降外スルトキハ各年代ニ於テソノ頻度ハ常ニ男子ノ方大ナリ. 血管性高血壓ト比較スルニ30年代以前

ニ於ケル頻度ハ腎性高血壓ニ於テ高キ事前述ノ如クニシテ, コノ關係ハ女子ニ於テ特ニ顯著ナルモ男子ニ於テモ, 尙其ノ傾向ヲ窺フコトヲ得ベシ. (第4, 第5表及ビ第4, 5, 6圖参照)

## 第5章 血管性高血壓ト他疾患トノ關係

### 1) 糖尿病

Kylin氏ガ本症ト糖尿病トノ關係ヲ唱ヘテ以來, 諸家ノ研究追試等ニヨリ益々一般ノ注意ヲ惹クニ至レリ. Kylin氏ニヨレバ85例ノ糖尿病患者中血壓140耗以上ノモノ88%, 160耗以上ノモノ72%, 180耗以上ノモノ48%ニシテ又本態の高血壓292例ノ中, 19%ニ糖尿病ヲ證明セリ. 佐々氏ハ高血壓症208例中, 12.8%ニ糖尿病ヲ證明シ中津川, 伊藤及ビ服部氏等ハ非腎性高血壓中31.5%ニ糖尿病陽性ヲ報ズルニ反シ, 平本, 手塚, 内田氏等ハ僅々4.4%ニ糖尿病ヲ見タリト云フ. 余等ノ教室最近5ケ年間ニ於ケル糖尿病例ハ108例(男子81例, 女子27例)ニシテ, ソノ中血管性高血壓ハ, 男子17例, 女子3例, 合計20例ニシテ糖尿病患者ノ18.5%(男子ハ20.9%, 女子ハ11.1%)ニ相當ス. 次ニ血管性高血壓者ノ中糖尿病ヲ證明スルモノハ29例(男女26例, 女子3例)ニシテ, 血管性高血壓ノ4.3%(男子5.3%女子1.6%)ニ相當ス. コレハ前記諸氏ノ統計ニ比シ可ナリノ差異アリ. 唯ダ平本, 内田, 手塚氏等ノ報告ト殆ンド一致セリ.

他方余等教室ノ糖尿病頻度ヲ見ルニ大正13年ヨリ昭和7年マデ9ケ年間ニ於ケル堂森, 加登兩氏ノ統計ニ依レバ男子0.88%, 女子0.42%, 男女合計0.69%ヲ示セリ. 余等ノ統計ニ依レバ最近5ケ年間ニ於ケル一般患者ニ對スル糖尿病頻度ハ0.8%(男子1.0%, 女子0.5%)ナリ. 以上ノ如ク一般患者ニ比シテ糖尿病ハ高血壓ヲ呈スルモノ多ク, 又血管性高血壓ノ中ニテモ一般患者ニ比シテ糖尿病ヲ呈スルモノ可ナリ多キハ余等ノ統計ニテモ亦同様ナリ. 然レドモ血管性高血壓ガ多クノ諸家ノ云フガ如ク植物神經系統ノ變調若シクハ内分泌失調等ノ因子ニ起因スルモ

ノナリヤ, 又ハ一部ノ人ノ唱ヘタル如ク臍臟血管ノ硬化ニヨル臍臟機能不全ニ起因スルモノナリヤ否ヤハ更ニ今後ノ研究ニ俟ツベキモノト思ハル.

### 2) 高血壓ト微毒

古來微毒ト高血壓症トガ密接ナル關係ヲ有スル事ハ多數ノ學者ニヨリテ説カル、所ナルモ本症ノ原因トシテノ意義ニ就イテハ諸家ノ見解尙一致スルニ至ラズ.

橋本, 赤塚兩氏ハ高血壓者ノ既往ニ於テ花柳病ヲ有スルモノ26.3%, 佐々氏ハ血管性高血壓ニテハ, 10.5%(男子12.5%, 女子5.7%)腎性高血壓ニテハ6.7%(男子9.7%, 女子3.5%), 血管性, 腎性全體トシテ8.15%ノワ氏反應陽性率ヲ認メタリ. 又中津川氏等ハ非腎性高血壓症ニテハ28.5%, 腎性高血壓症ニテハ20.6%ヲ報ジ何レモ微毒ト密接ナル關係アルヲ認メタリ. 又最近平本氏等ハ微毒自身ハ高血壓ヲ惹起シ得ズトスルモノノ合併ハ本症ノ經過ヲ悪化セシムト報ゼリ. 次ニ余等ノ教室ニ於テハ高血壓者ノミナラズ一般患者ニ就イテモソノ既往症又ハ現症ニ於テ微毒血清反應必要ト認メラレタルモノニ就イテハ, 常ニワ氏反應, 村田氏反應, 「マイニツケ」氏反應ヲ施行セリ. 余等ノ教室ニ於ケル血管性高血壓及ビ腎性高血壓ノワ氏反應陽性率ヲ一般患者ノ陽性率ト比較スルニ被檢者ニ對スル%ハ血管性22.2%, 腎性18.1%, 一般患者14.6%ニシテ明ニ一般患者ニ比シ陽性率大ナリ. 素ヨリ以上ノ百分率ハ被檢者ニ對スル比率ニシテ, コレハ元來ワ氏反應検査ノ必要ヲ認メラレタル例ニツキワ氏反應ヲ施行セルヲ以ツテ, ソノ陽性率ハ高血壓患者, 一般患者共ニ甚ダ高キ値ヲ示スニ至レルモ兩者ノ比較ヲ論ズル根據ト

ナス=足ル。一般患者高血圧患者=於ケル眞ノワ氏反應陽性率ヲ求メントスルニハ勿論夫等患者=就キテ何等ノ撰擇ヲモ行フ事ナク之ヲ檢シタル材料=依ラザル可カラズ。吾人ノ場合ハ上述ノ如ク徽毒ノ疑ヲ置キタルモノ=於テノミ撰擇シコレヲ檢シタルモノナルガ故=極メテ正確ナルヲ期シ難キモ試ミ=高血圧患者及ビ一般患者總數=對スルワ氏反應陽性率ヲ求ムレバ第6表最右行=示セルガ如ク一層明=前述ノ差異ヲ認メ得ベシ。又被檢者數ヲ夫々ノ疾患々者總數=比較スル=一般患者男子=於テハ被檢患者ハ其ノ患者總數ノ $\frac{1}{3.5}$ 、女子=於テハ $\frac{1}{6.9}$ 男女合計=就イテ見レバ $\frac{1}{4.4}$ 、血管性高血圧=於テハ夫々 $\frac{1}{2.4}$ 、 $\frac{1}{2.6}$ 、 $\frac{1}{2.3}$ 、腎性高血圧=於テハ $\frac{1}{3.6}$ 、 $\frac{1}{4.8}$ 、 $\frac{1}{3.9}$ トナレリ。即チ高血圧患者殊=血管性高血圧患者=於テハ臨床的=既=徽毒ヲ、疑フベキ理由ノ存シタル場合比較の多數ナリシヲ示スモノト云フ可シ。以上諸種ノ觀點ヨリシテ高血圧患者=於テハ同時=徽毒ヲ有スルモノ一般患者ノ場合=比シテ多キハ疑ナキ事實ニシ

テ、殊=第6表=明ナル如ク血管性高血圧就中男性患者=此ノ關係最モ顯著ナルヲ知ル可ク、高血圧殊=血管性高血圧ガ徽毒ト密接ナル關係=アルコトハ否定シ難キモノナリト考ヘラル。

第6表 一般患者血管性高血圧及ビ腎性高血圧=於ケル「ワ氏反應」陽性率ノ比較

	性	總數	被檢者數	ワ氏反應陽性者數	被檢者=對スル%	總數=對スル%
一般患者	♂	8084	2323	356	15.3	4.4
	♀	5986	867	111	12.9	1.8
	計	14070	3190	467	14.6	3.3
血管性高血圧	♂	355	148	36	24.3	10.1
	♀	107	41	6	14.6	5.6
	計	462	189	42	22.2	9.0
腎性高血圧	♂	136	38	7	18.4	5.1
	♀	81	17	3	17.1	3.7
	計	217	55	10	18.1	4.6

### 第6章 遺傳年度別頻度, 主訴, 浮腫=就イテ

#### 1) 遺傳トノ關係

遺傳的素因ト血管性高血圧發生トノ間=密接ナル關係ノ存スルコトハ夙=先進諸家ノ注意セル所ニシテ本症患者ノ血族中=ハ屢々卒中及ビ心臟死ノ發生スルコトアリ。

Weitz 氏ハ82例ノ本症=兩親又ハソノ何レカ一方ガ卒中又ハ心臟疾患=テ死亡セルモノノ76.8%=及ビ他ノ任意疾患=ツキテハ30.3%=過ギズト云フ。Wichmann u. Paal 氏ハ500例ノ高血圧中38.4%ノ卒中遺傳ヲ證明シ對照100例=ツキテハ19%=過ギズト云フ。橋本氏ハ26.6%、中津川、伊藤、服部氏等=依レバ187例中55.5%=卒中ヲ證明ス。志田氏ハ59.3%ヲ報告シ最近平本、内田、手塚氏等ハ113例ノ本態的高血圧症ノ中、62.8%=卒中ヲ認メ對照、胃癌ノ113例中47.7%ナル=比シテ遙=多シト云ヒ、前記諸家何レモ密接ナル關係ヲ認メタリ。

余等教室=於テハ第7表=示ス如ク前記諸氏ノ報告ヨリ稍低ク血管性高血圧462例中兩親及ビ兩系祖父母=卒中症ヲ認ムルモノ男子37.1

第7表 高血圧ト遺傳的關係

	性	腦溢血	結核	癌
血管性高血圧	♂	132 (37.1%)	26 (7.3%)	23 (6.3%)
	♀	44 (42.0%)	10 (9.3%)	7 (6.5%)
	計	176 (37.9%)	36 (7.8%)	30 (6.4%)
腎性高血圧	♂	17 (12.4%)	14 (11.5%)	13 (9.5%)
	♀	13 (16.0%)	5 (6.1%)	10 (12.3%)
	計	30 (13.8%)	19 (8.7%)	23 (10.6%)
任意疾患 (主トシテ呼吸器 或ハ消化器 病患者)	♂	59 (24.1%)	47 (19.2%)	40 (16.4%)
	♀	23 (21.3%)	16 (14.8%)	13 (12.0%)
	計	82 (23.2%)	63 (17.9%)	53 (15.0%)

%, 女子42%全體トシテ 37.9%, 腎性高血壓ニハ男子 12.4%, 女子 16.0%, 合計 13.8%ナリ。即チ腎性高血壓ニ於テハ結核, 癌ヲ其ノ家族歴ニ證明セラル、ト略同様ノ頻度ニ於テ腦溢血ヲ證明シ得ルニ過ギザレドモ血管性高血壓ニ於テハ明ニ他ヲ凌駕ス。又對照疾患トシテ主トシテ消化器及ビ呼吸器疾患々者 352 名ニ於テ同様ノ調査ヲ行ヘルニ腦溢血ノ頻度ハ此處ニ於テモ結核, 癌ノ夫ヨリ高キヲ見タルモ尙25%ヲ超ヘズ。即チ血管性高血壓ノ場合ニ於ケル腦溢血ノ遺傳關係ハ明ニ濃厚ナリ。

2) 高血壓ノ年度別頻度

近時, 血管性高血壓ハ文明ノ進歩ト共ニ逐年的ニ増加スル傾向アリト唱フルモノアリ。佐々氏ハ高血壓ノ毎年度別頻度ニツキ其ノ實數ニ於テモノノ總患者ニ對スル百分率ニ於テモ毎年多少ノ動搖ハ見ラル、モ、大體ニ於テ甚ダシキ消長ナシトイフ。又平本, 内田, 手塚氏等ハ逐年的ニハ増加ヲ示セルモ必シモ文明ノ進歩ト共ニ増加スルトハ斷言シ難ク寧ロ社會一般人ガ本症ニ注意スルニ至レル結果ナリト認メタリ。余等

ハ血管性高血壓, 腎性高血壓ノ年度別總患者數ニ對スル百分率ヲ求メタリ(第8表)。即チ血管

第8表 高血壓ノ年度別頻度

年度 性	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度
	血管性高血壓	♂ 41 (2.8%) ♀ 19 (1.8%) 計 60 (2.3%)	♂ 51 (3.2%) ♀ 11 (0.9%) 計 62 (2.3%)	♂ 66 (3.7%) ♀ 21 (1.6%) 計 87 (2.8%)	♂ 96 (5.5%) ♀ 27 (2.1%) 計 123 (4.0%)
腎性高血壓	♂ 28 (1.9%) ♀ 10 (0.9%) 計 38 (1.4%)	♂ 22 (1.4%) ♀ 10 (0.8%) 計 32 (1.1%)	♂ 32 (1.7%) ♀ 17 (1.3%) 計 49 (1.5%)	♂ 27 (1.5%) ♀ 20 (1.5%) 計 47 (1.5%)	♂ 27 (1.7%) ♀ 24 (1.9%) 計 51 (1.8%)
一般患者總數	♂ 1464 ♀ 1037 計 2501	♂ 1580 ♀ 1155 計 2735	♂ 1796 ♀ 1283 計 3079	♂ 1718 ♀ 1270 計 2988	♂ 1526 ♀ 1241 計 2767

性高血壓ニテハ表ニヨリテ見ラル、如ク、男子, 女子, 何レモ百分率ハ増加シ腎性高血壓ニテハ斯ノ如キ傾向ハ見ラレズ。又若年高血壓患者ノ逐年増加ノ傾向モ之ヲ認メ得ズ(第9表)。

第9表ノ1 血管性高血壓ノ年度別, 年齢別分布  
男 女

年度 年齢	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
20以下	0	2	0	0	0	2
21-30	0	1	2	2	4	9
31-40	4	8	3	10	5	30
41-50	14	10	12	17	26	79
51-60	14	16	30	43	40	143
61-70	6	11	12	22	22	73
71-80	3	2	7	2	4	18
81以上	0	1	0	0	0	1
計	41	51	66	96	101	355

年度 年齢	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
20以下	0	0	0	0	0	0
21-30	0	0	0	0	0	0
31-40	2	1	1	2	4	10
41-50	4	3	7	8	6	28
51-60	8	4	8	10	7	37
61-70	3	1	5	6	9	24
71-80	2	2	0	1	3	8
81以上	0	0	0	0	0	0
計	19	11	21	27	29	107

尙逐年的ニ高血壓ノ頻度ノミナラズ血壓度モ漸次増加スル傾向アリヤ否ヤ。余等ハ此ノ點ニモ留意セルモ今回ノ調査ニ於テハカ、ル傾向ハ見

ラレザリキ(第10表ノ1, 2)。毎年度別頻度ニツキテハ僅々5ヶ年間ノ短日月ノ觀察ナルヲ以ツテ, コレヲ以ツテ直チニ結果ヲ斷定スルコト

第9表ノ2 腎性高血圧ノ年度別、年齢別分布

男

年齢 \ 年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
20以下	0	2	1	2	0	5
21-30	0	2	1	2	3	8
31-40	3	2	2	3	6	16
41-50	10	1	5	5	4	25
51-60	8	7	11	5	8	39
61-70	5	7	11	9	6	38
71-80	2	1	1	1	0	5
81以上	0	0	0	0	0	0
計	28	22	32	27	27	136

女

年齢 \ 年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
20以下	0	1	0	1	3	5
21-30	1	0	4	3	2	10
31-40	5	2	6	2	5	20
41-50	0	2	3	6	7	18
51-60	0	3	3	7	5	18
61-70	4	2	0	1	2	9
71-80	0	0	1	0	0	1
81以上	0	0	0	0	0	0
計	10	10	17	20	24	81

第10表ノ1 血管性高血圧ノ年度別、血圧度別分布

男

血圧度 \ 年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
150-160	12	22	19	54	39	146
161-170	4	8	18	12	19	61
171-180	6	3	9	9	17	44
181-190	2	10	5	9	8	34
191-200	4	2	3	3	3	15
201-210	5	2	1	2	3	13
211-220	3	1	5	3	10	22
221-230	2	0	2	1	1	6
231-240	1	2	2	1	0	6
241-250	1	1	1	1	0	4
251-260	1	0	0	1	1	3
261-270	0	0	1	0	0	1
271-280	0	0	0	0	0	0
合計	41	51	66	96	101	355

女

血圧度 \ 年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
150-160	3	4	11	10	6	34
161-170	5	4	3	5	3	20
171-180	3	1	1	3	10	18
181-190	4	1	4	4	2	15
191-200	1	0	0	2	4	7
201-210	1	1	1	3	3	9
211-220	1	0	1	0	0	2
221-230	0	0	0	0	0	0
231-240	1	0	0	0	0	1
241-250	0	0	0	0	0	0
251-260	0	0	0	0	1	1
261-270	0	0	0	0	0	0
271-280	0	0	0	0	0	0
合計	19	11	21	27	29	107

ハ聊カ早計ナルノミナラズ、コノ結果ヲ以ツテ該患者發生ノ逐年的增加ノミヲ意味スト解ス可カラザルハ自明ノ理ニシテ此ノ問題ニ對スル根本的解答ハ廣汎ナル一般健康調査ニ依リテ始メテ與ヘラル可キモノナレドモ而モ尙上記ノ成績ハ有意義ナル示唆ヲ與フルモノニシテ腎性高血

壓患者ニ於テ逐年的增加ヲ認メ得ザル點ト對比シ特ニ此ノ感ヲ深クスルモノナリ。

3) 血管性高血圧ノ主訴

血圧 150 耗以上ヲ示セルモノハ多少ト雖モ愁訴ヲ有スルモノニシテ余等ハ血管性高血圧ノミニ就キ主トシテ初診當時ノ主訴ヲ之トシテ調

第10表ノ2 腎性高血壓ノ年度別、血壓度別分布

男

血壓度	年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
150-160	8	6	10	5	8	37	
161-170	5	3	4	1	3	16	
171-180	3	5	1	2	2	13	
181-190	1	0	4	3	4	12	
191-200	1	0	0	5	2	8	
201-210	2	1	3	3	1	10	
211-220	2	1	4	3	3	13	
221-230	2	3	1	1	2	9	
231-240	1	2	1	3	2	9	
241-250	2	0	3	0	0	5	
251-260	0	0	0	0	0	0	
261-270	0	1	0	1	0	2	
271-280	1	0	1	0	0	2	
合計	28	22	32	27	27	135	

女

血壓度	年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	合計
150-160	1	5	4	9	8	27	
161-170	2	1	2	2	5	12	
171-180	2	0	6	4	2	14	
181-190	0	1	1	2	5	9	
191-200	0	2	1	0	1	4	
201-210	2	0	1	0	0	3	
211-220	1	0	1	0	1	3	
221-230	1	0	0	1	0	2	
231-240	0	1	0	0	2	3	
241-250	1	0	0	2	0	2	
251-260	0	0	1	0	0	1	
261-270	0	0	0	0	0	0	
271-280	0	0	0	0	0	0	
合計	10	10	17	20	24	81	

査セルニソノ成績第11表ノ如シ。

第11表 血管性高血壓ノ主訴

神経系症状				循環系症状			
主訴	♂	♀	計	主訴	♂	♀	計
頭痛	41	18	59	心悸亢進	23	7	30
眩暈	23	5	28	浮腫	22	2	24
言語障碍	17	4	21	心臓部痛	18	6	24
腰痛	11	9	20	胸内苦悶	11	3	14
肩凝	10	4	14	心部壓迫感	9	5	14
四肢運動障碍	11	2	13	呼吸困難	11	8	19
耳鳴	9	5	14	不整脈	2	1	3
半身不隨	9	4	13	合計	96	32	128
歩行障碍	6	2	8				
睡眠障碍	4	0	4				
難聴	2	0	2				
頸部緊張感	1	2	3				
肩痛	3	0	3				
四肢痛	0	2	2				
記憶力障碍	1	0	1				
全身動搖感 四肢ノ知覺異常 (シビレ感、熱感、冷感)	0	1	1				
合計	201	68	273				

第12表 血管性高血壓ノ主訴

全身症状				其ノ他ノ症状 (消化, 眼, 泌尿器系)			
主訴	♂	♀	計	主訴	♂	♀	計
倦怠感	18	11	29	腹痛	4	1	5
發汗	1	0	1	口渴	2	0	2
寢汗	1	0	1	食慾不振	1	0	1
脂肪過多	1	0	1	便秘	1	2	3
羸瘦	2	2	4	嘔吐	1	0	1
合計	23	13	36	衄血	3	0	3
				咳嗽	4	2	6
				嘶嘎	1	2	3
				多尿	3	2	5
				視力障碍	5	1	6
				合計	25	10	35

最モ多キ愁訴ハ神経系症状ニシテ 273 件ニ達シ頭痛, 眩暈ノ血行障碍ニヨルモノ極メテ多ク四肢ノ知覺異常ヲ訴フルモノ最モ多シ。神経系症状ニ次イデ多キハ循環系症状ニシテ 128 件アリ就中, 心悸亢進, 浮腫心部痛等ガ大部ヲ占ム。ソノ他ノ症状ハ比較的少ク全身症状ヲ訴フルモノノ 36 件ニシテ消化器症状, 泌尿系症状ハ更

ニ少シ。衄血、視力障碍ノ如キモ各數件ヲ出デザリキ。コレヲ訴アル者ノ耳鼻科、眼科等ヲ訪ル、ニ依ルモノナランカ。

#### 4) 高血圧者ノ浮腫

血管性高血圧者ノ浮腫ハ17.7%(男子17.4%, 女子18.6%)ニシテ男女ノ間ニハ大ナル差ナク

浮腫ノ程度モ亦輕度ニシテ高度ノ浮腫ハ極メテ僅少ナリ。腎性高血圧ニテハ全體トシテ41.5%(男子38.2%, 女子44.9%)ニシテ血管性ノモノヨリ可ナリ多ク又ソノ浮腫ノ程度モ血管性ニ比シテ高度ナリ。

## 第7章 總括及結論

1) 余等ハ最近5ケ年間谷野内科教室ニ於テ診療セル高血圧患者679例ニツキ統計ノ觀察ヲ行ヘリ。

2) 一般患者ニ對スル高血圧頻度ハ4.8%(男子ハ6.0%, 女子ハ3.1%)ナリ。血管性高血圧ニ對スル腎性高血圧ノ比ハ3.28%:1.54%即チ略々2:1ナリ。

3) 血管性高血圧ニ於ケル男子對女子ノ比ハ3.3:1ナリ。腎性高血圧ニ於テハ1.6:1ナリ。以上ハ患者實數ニ於ケル分布ナルモ男女一般患者ニ對スル高血圧者男女ノ百分率ヲ以ツテ男女頻度ヲ比較スルトキハ血管性高血圧ニアリテハ男女ノ比4.4%:1.8%即チ2.5:1, 腎性高血圧ニアリテハ即チ1.2:1ニシテ血管性高血圧ニテハ男子ニ多發スル傾向ヲ示シ腎性高血圧ニテハ男女ノ差著シカラズ。

4) 血管性高血圧ハ比較的若年者ニ少ク40年代ヨリ急激ニ増加シ40—60年代大部ヲ占メ50年代ノモノ最モ多ク38.9%ヲ占ム。腎性高血圧ハ50年代ニ於テ最モ多キモ26.2%ニシテ且ツ若年者ニモ比較的多數ニ認メラレ年齢ノ増加ト共ニ増加スル割合ハ血管性高血圧ノ如ク急激ナラズ。以上ハ實數ニ於ケル分布ノ觀察ナルモ一般患者各10年代人員ニ對スル高血圧者ノ百分率ニヨリテ頻度ヲ見ルトキハ血管性腎性高血圧何レニ於テモ30年代ヨリ稍増加スル傾向アリ。此ノ増加ハ40年代以後顯著トナリ血管性高血圧ニ於テハ特ニ急激ナリ。20年代以後ニ於テハ腎性高血圧多ク、40年代以後ニ於テハ血管性高血圧ノ

方多シ。30年代ニ於テハ兩者略同頻度ヲ示セリ。之レ此ノ種ノ女子高血圧ガ月經閉止ト關係アルコトヲ示スモノナラン。腎性高血圧ハ30—40年マデハ却ツテ女子ニ多發スル傾向アリ。之ハ妊娠及ビ分娩ニ關係アルヲ示ス如シ。

5) 余等教室最近5ケ年間ノ糖尿病患者中血管性高血圧ヲ示スモノ18.5%(男子20.9%, 女子11.1%)ナリ、而シテ血管性高血圧ノ中糖尿ヲ證明スルモノ4.3%(男子5.3%, 女子1.6%)ニシテ何レモ一般患者ノ場合ニ比シ高キ%ヲ示セリ。

6) 血管性高血圧患者ニシテ梅毒ヲ合併セルモノハ一般患者ノ夫ニ比シテ明ニ高率ニシテ梅毒ト血管性高血圧トノ間ニ密接ナル關係アルヲ思ハシム。

7) 血管性高血圧者ノ兩親又ハ兩系祖父母ニ卒中ヲ證明スルモノ37.9%(男子37.1%, 女子42%)ニシテ對照ニ比シ明ニ高キ値ヲ示セリ。

8) 高血圧患者ノ每歷年度別頻度ヲ見ルニ血管性高血圧ニテハ其ノ受診患者逐年増加スル傾向ヲ示スニ反シ、腎性高血圧ニテハ各年度ニ於テ著變ナシ。若年高血圧患者並ビニ血壓度ハ逐年的ニ増加ノ傾向ヲ認メズ。

9) 血管性高血圧ノ主訴ハ神經系症狀最モ多ク次イデ循環系症狀ノモノ多シ。

10) 浮腫ハ血管性高血圧ニハ少ク腎性ノモノニ多ク40%ニ達ス。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜リタル恩師谷野教授ニ深甚ノ謝意ヲ捧グ。

## 參 考 文 獻

- 1) 平川知福, 中外醫事新報, 1090號. )2 平川公行, 倉矢徹, 日本學校衛生, 第15卷, 第1號.
- 3) 日小田眞, 中外醫事新報, 第989. 4) 種村式, 京都醫學雜誌, 第15卷. 5) 柴山幸一, 東北醫學會雜誌, 第4卷. 6) 廣田寬四, 大阪醫學會雜誌, 第18卷, 第10號. 7) 石岡鑿太郎, 保險醫學會雜誌, 第37卷, 第2號. 8) 佐々藤平, 診斷と治療, 第22卷, 上. 9) 橋本寛敏, 赤塚栄治, 日本內科學會雜誌, 第22卷. 10) 川島泰男, 日本內科學會雜誌, 第22卷. 11) Wichmann u. Paal, Deut. Arch. f. kl. med. Bd. 154, 1927.
- 12) Kylin, Der Blutdruck des menschen 1937.
- 13) 林修, 日本內科學會雜誌, 第11卷, 第2號.
- 14) 平本, 內田, 手塚, 千葉醫學會雜誌, 第15卷.
- 15) 中津川, 伊藤, 服部, 日本內分泌學會雜誌, 第10卷, 第3號. 16) 志田藏之助, 日本內科學會雜誌, 第22卷, 第10號. 17) W. Weitz, Zsch.f. Kl. med. Bd. 96, Jg. 1923. 18) 堂森, 加登, 東京醫事新誌, 第2928號.